

## 当センター透析室における災害訓練での『アクションカード』使用と実際

東京女子医科大学医療センター 血液浄化部

戸田千恵子 柴田美帆 近藤敦子 小瀧崇行 芝田正道 竹内弘恵 樋口千恵子  
中澤速和

### 【背景】

当センターで行う災害訓練では、アクションカードを用いている。平成26年4月より透析室ではアクションカードを活用して、毎月1回の初期対応訓練を実施している。

### 【目的】

災害時、スタッフが慌てず自分の役割を理解し行動がとれ、効率よく対応できるアクションカードを作成することを目的としました。

### 【方法】

- ① 月1回の災害訓練を実施
- ② 訓練後、ブリーフィングを行い参加者全員で意見交換を行う。
- ③ 災害WGメンバーでアクションカードの見直しと修正を行う。
- ④ 修正したアクションカードをスタッフへ提示し内容の確認を行い、次回の災害訓練に備える。

方法①実際の訓練の様子。訓練当初は各役割のリーダーを立てていなかった。メンバーがそれぞれ指揮者へ報告していた為、報告内容が重複していることがあった。又報告するために数名のメンバーが待っていることもあり、患者への声掛けが少なくなり対応が遅れました。図1の写真は、指揮者がどんどん集まる情報を整理することにじかんを要し、指示が遅れていた。又全員が初期消火に向かうといった同じ動きをしている場面などがみられていた。

図1



うせ方法②訓練後の意見交換では、アクションカードに書いてある文章が長く、読むことに集中してしまう、文章の意味が分かりづらい、役割分担が決まっているが、同じカードをみんなが持っているため、行動が同じになってしまうなどの意見があった。

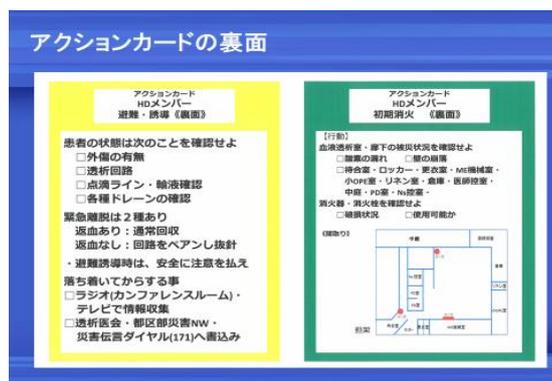
方法③災害 WG メンバーで、訓練時の問題点や、意見交換の内容を参考にして、アクションカードの内容の修正と次回の訓練の課題を検討した。

方法④修正したアクションカードの一部（図2）

透析室には8種類のアクションカードがあり、指揮者は赤、避難誘導は黄色、初期消火は緑となっている。文章を簡潔にすることで内容が把握しやすくなった。又文字を大きくすることで見やすくなった。アクションカードの裏面（図3）には落ち着いてからする行動と、緊急時慌てることを想定して、裏面に詳しく記載している。間取り図を入れたことで、消火器と消火栓がどこにあるかすぐわかるようになった。

図2

図3



現在使用している役割別カード（図4）

カード作成時は、指揮者の役割を指揮・命令・記録としていました。しかし、訓練の重ねていく中で、指揮をとりながらの記録は難しいことがわかり、記録を主とする指揮者ほさの役割を作りました。腹膜透析外来では家族が付き添いで来院する患者が多いため、患者だけでなく家族も含めた内容にしました。ME 専用のカードにはコンソール、RO 装置などの確認を加えた。

図4



### 修正後の訓練の様子（図5）

最初はカード手に持って行動していましたが、首にかけるようにしてからは両手が使えるようになり、動きやすくなった。また、お互いの役割が、カードを見てすぐわかるようになった。各役割のリーダーも決めました。メンバーはリーダーに報告した後、すぐに災害現場や患者の所へ戻ることができるようになった。各役割のリーダーが指揮者に報告することで情報を迅速に整理できるようになった。報告するために待つ時間も短縮され、効率よく対応できるようになったと感じる。

図5



### 【結果】

- ・ 訓練当初は、アクションカードに記載されている内容を理解することに時間がかかり対応が遅くなっていた。理由は文章が長く、読むことに時間がかかるということだった。毎月1回の訓練を繰り返し行い、そのたびにアクションカードの内容を検討した結果、役割が明確となり、迅速に対応できるようになった。

### 【考察】

実際の災害時では迅速な対応が求められるため、自分の役割と行動を表記するために内容を検討したことは有効であった。

今後も定期的に訓練を重ねてどの役割にも対応できるよう取り組む必要があると考える。